

目標	視点	アンケート項目（上…児童　中…保護者　下…教職員）	児童						保護者						教職員						視点 平均	目標 平均	自己評価結果からの考察（■）・対策（◇）			
			4	3	2	1	平均	肯定的割合（％）	4	3	2	1	0	平均	肯定的割合（％）	4	3	2	1	0				平均	肯定的割合（％）	
安心・安全で楽しく通える学校（ことば・なかま）	平和・人権	私は、自分もみんなも楽しくなれるよう、いじわるや悪口をせず生活している	80	56	8	3	3.45	92.52																3.38	「安心・安全で楽しく通える学校」の目標を概ね達成できていると考える。子どもたちが馴染めるか懸念された統合初年度であるが、良いスタートを切ることが出来たと推察する。 ■生活指導面で「あいさつ・返事」「学校のきまり」について評価がやや低い児童が13％程度。 ◇学校においては、今後も機を逃さない指導を継続する。「あいさつ」については、学校のみならず家庭・地域と一体となって取り組んでいくことが望まれる。 ■児童アンケートの「先生がほめくれる・相談にのってくれる」での「2」「1」を回答した児童が少なからずいることへの配慮に努める必要がある。 ◇「全教職員で全児童を伸ばす」ということを再度共通理解して指導や支援の在り方を考える。 ◇家庭との情報交換・連携を密にして、児童の指導や支援についての共通理解を図る。 ◇相談窓口が学校だけではなく、「24時間子供SOSダイヤル」や「こどもの人権SOSミニレター」等、外部の相談窓口があることを周知する。	
		子どもが安心して登校できるよう、人権・平和、命に配慮した学校・学級づくりに努めている							26	30	3	0	5	3.39	94.92											
		学校の教育活動全体を通して、命や人権について指導するとともに、道徳的価値を高めるように努めている														6	6	0	0	0	3.50	100.00				
	生活指導	私は、元気よくあいさつや返事をしたり、学校のきまりを守ったりして生活している	72	56	15	4	3.33	87.07																		3.32
		子どもが挨拶や言葉遣い等、学校や社会生活でのきまりを守れるような指導や支援に努めている							18	35	7	0	4	3.18	88.33											
		機を逃さない生活指導を通じ、児童の規範意識の向上に努めている														9	3	0	0	0	3.75	100.00				
	自己肯定感	良いことをしたとき、先生はほめてくれる	73	52	15	7	3.30	85.03																		3.29
		子どもが自己肯定感を高められるような支援や配慮に努めている							21	25	8	0	10	3.24	85.19											
		子どもの特性を把握し、自己肯定感の向上に努めている														5	7	0	0	0	3.42	100.00				
	子どもの相談	悩みや困ったことがあると、先生が相談に乗ってくれる	96	39	10	2	3.56	91.84																		3.46
		子どもの悩みや困りに応じた支援や配慮に努めている							16	29	7	1	11	3.13	84.91											
		子どもの相談や困りに向き合い、適切な支援や配慮に努めている														9	3	0	0	0	3.75	100.00				
家庭や地域と連携し、活力ある学校（がんばり）	体力向上	私は、運動や外遊びをよくしている	103	23	18	3	3.54	85.71															3.45	「家庭や地域と連携し、活力ある学校」の目標を概ね達成できていると考えるが、以下の点については課題が見られる。 ■「外遊び」の評価がやや低い児童が15％程度。 ◇体力向上に向けて「外遊び」を推奨しているが、静かに読書等をして過ごしたい児童もいる。無理に「外遊び」を奨めるものではなく、子どもの状況に応じてクラス遊び等を設定するとともに、熱中症に十分留意した無理のない「外遊び」を推奨する。 ■「基本的な生活習慣」の評価がやや低い児童が20％程度。 ◇保護者の評価は比較的高いので、今後も学校と家庭が連携・協力して取り組んで生活習慣への意識向上に努める。特に朝食やメディアとの関わり方については一層の取組を図りたい。 ■「健康な生活」について児童と保護者・教職員で若干の意識の乖離が見られる。 ◇健康な生活の具体について、家庭・学校が何が不十分と捉えているかを子どもたちに説明や指導を図りたい。		
		子どもの体力が向上するように、運動の機会を設けるように努めている							21	26	6	1	10	3.24	87.04											
		運動の機会、運動量の確保と個に応じた基礎体力の向上に努めている														2	8	0	0	2	3.20	100.00				
	生活習慣	私は、早寝・早起き・朝ご飯などの規則正しい生活をしている	66	52	19	8	3.21	81.38																	3.24	
		家庭と連携し生活リズムを身に付けさせ、子どもの基本的な生活習慣の形成に努めている							20	36	2	0	6	3.31	96.55											
		家庭と連携し生活リズムを身に付けさせ、子どもの基本的な生活習慣の形成に努めている														2	8	0	0	2	3.20	100.00				
	健康な生活	私は、自分の病気やけがをしないように気を付けたり、食べ物の好き嫌いをしらず、健康に気をつけた生活をしている	70	52	20	4	3.29	83.56																	3.25	
		家庭と連携し、子どもの食生活を整えたり、けがや病気を予防したりして健康な生活を送れるように努めている							15	33	5	0	11	3.19	90.57											
		家庭と連携し、子どもの食生活を整えたり、けがや病気を予防したりして健康な生活を送れるように努めている														1	8	1	0	2	3.00	90.00				
	達成感	私は、学習や自分の役割に最後までねばりづよく取り組んでいる	77	60	7	2	3.45	93.84																	3.4	
		目標を持たせて物事に取り組ませ、ねばり強くやり遂げる教育に努めている							20	26	7	1	10	3.20	85.19											
		適度な負荷のかかった取組に粘り強く取り組み、乗り越えた達成感を味わわせるよう努めている														7	5	0	0	0	3.58	100.00				
確かな学力を定着させる学校（いきいき）	学力向上	私は、先生がわかりやすく勉強を教えてくれていると思っている	104	32	6	5	3.60	92.52															3.27	「確かな学力を定着させる学校」の目標を概ね達成できていると考えるが以下の点については課題が見られる。 ■保護者の意識として学力向上を望むものと受け取れる数値と考察する。 ◇「学力」の捉え方や学校での学習指導の仕方について授業参観のみならず保護者へ周知する機会を検討する。 ■「宿題・自主学習」への取り組みの評価が低い児童が多い ◇1学期に実施した「のびのび学習チャレンジ週間」の取組を見直し、本校の児童にとってよりよい「宿題・自主学習」のあり方を検討する。 ■「読書」に対する児童の評価に課題が見られる。各学年ごとに目標冊数を設定したり、教職員も積極的に図書に親しむ機会を設定したりしている。学校での読書のことなのか、家庭での読書のことなのか、もう少し分析する必要がある。 ◇「読書」につながる授業づくり（特に国語）や図書室を利用する調べ活動を仕組む等、児童の身近に本がある環境づくりを行う。		
		子どもが楽しく学び、必要な学力が身に付くよう授業を工夫している							21	32	6	1	4	3.22	88.33											
		子どもが楽しく学び、必要な学力が身に付くように研修や授業改善に努めている														7	5	0	0	0	3.58	100.00				
	家庭学習	私は、宿題や自主学習を家でもきちんと取り組んでいる	87	42	13	5	3.44	87.76																	3.37	
		子どもが家庭学習に自主的に取り組むことができるように工夫している							20	32	8	0	4	3.20	86.67											
		家庭と連携し、家庭学習（宿題）や自主学習の習慣化を図れるよう努めている														6	4	1	0	1	3.45	90.91				
	読書	私は、学校や家で読書をよくしている	52	42	35	18	2.87	63.95																	2.94	
		読書や読み聞かせなど、読書活動の推進に努めている							20	29	9	2	4	3.12	81.67											
		本に親しむ機会を設け、読書の習慣を図るよう努めている													3	6	1	1	1	3.00	81.82					
その他	保護者の相談																						3.36	■各項目において概ね児童・保護者・教職員の意識に大きな乖離は見られないと考察するが、「生活指導」や「子どもの相談」等、子育てにおける保護者の困り感が感じられる。 ◇学校の相談体制については、生活指導事案等の負の側面だけでなく、児童の頑張りやよい行い等も積極的に保護者に伝えることで、信頼関係を一層築いていくよう努める。また、学校以外の相談窓口についても周知し、多面的な支援ができるように努める。		
		保護者の相談に真摯に応じている							22	27	4	2	9	3.25	89.09											
		保護者の相談に真摯に応じるよう努めている														10	1	0	0	1	3.91	100.00				
	情報発信																						3.44			
学校・学年・学級だより等で子どもの様子を伝え、家庭・地域と連携した教育に努めている								30	29	1	1	3	3.44	96.72												
		学年・学級の様子を発信し、家庭や地域との連携に努めている													5	4	1	0	2	3.40	90.00					